

ローゼンブラット+コンテンポラリー vol.2

Pelican on the Swan Lake

反省しない雑草集団が贈る
笑いと、たぶん涙の世界
今年も変なことやります

2013年 **9月7日** (土) **ムジカーザ** 開演19:00 (開場18:30)

全自由席 **¥4000** (税込・1ドリンク付き) ※未就学児の入場可 (要チケット)

◆後援 ロシア連邦大使館 ロシア連邦交流庁 一般社団法人全日本ピアノ指導者協会 日本アレンスキー協会 札幌大学

◆主催 musicaliceland (ミュージカリスランド)

◆チケット取扱/お問い合わせ ミュージカリスランド代表 Eメール riot-the-runner@live.jp ☎ 090-7276-1858

ホームページ
チケットお申し込み



贅沢なペリカン

「なぜなら、芸術において私たちは、単に心地よい、あるいは役に立つ遊び道具とではなく、…真理の展開と関わっているからである」ヘーゲル『美学講義』第三部

芸術とは無駄なもの、生活には必要の無いもの。芸術が芸術であるためには、人の役に立つだけのものであってはなりません。現在から未来を創造し、その光をもって世界を彩ることが芸術の宿命なのです。そこにこそ未来への輝ける価値があります。無駄でありながら、価値のあるものを何というでしょう。贅沢です。芸術は最高級の「ラグジュアリー」なのです。私たちがご紹介する新しい音楽は、知性が星のごとく煌めき、また滅多に耳に入ることのない希少性も持ち合わせています。その二つの性質は宝石と相違ありません。この音楽の宝石は未来への夢、新しい世界への扉。美しいだけだったり、傑作と呼ばれて過大な価値の付けられているだけの悲しいものとは一線を画します。私たちの時代の音楽を、採れたての新鮮な果実に口をつけるように味わい、舌つつみを打っていただけたら幸いです。

さて、私たちmusicalicelandもそんな贅沢な音楽が大好き。今回は「白鳥の湖」を中心に、言わずと知れた喜劇王チャップリンの音楽作品から、音楽の抽象表現を探求した始祖ウェーベルンなど、幅広い現代音楽をご披露します。ロシアバレエ音楽の古典をテーマにはしますが、「白鳥」のように湖でおすましして人から与えられたパンを食べて生きるような上品なマネはいたしません。私たちは「ペリカン」です。好奇心旺盛、貪欲にありとあらゆる音楽を食べつくし、決して上品に振る舞うことのない最強の水鳥。この精神は、西洋音楽に御法度であるポップス語法を超絶技巧で落とし込んだ我々が敬愛するアレクサンドル・ローゼンブラットと共にあるのです。

こちらの、日付も曲目も書かれていない、まことに無駄な文章に目を落として下さり、心より御礼申し上げます。あなたこそ本物の芸術がわかる方、そして私たちがご用意する饗応のひと時を待ち望んで下さる方。

さあ、共に最高の贅沢を！

総監督／松本和貴



演奏曲目

チャールズ・チャップリン作曲

◎スマイル

ヤニス・クセナキス作曲

◎モーリス・ラヴェルへのオマージュ「アル」

アントン・ウェーベルン作曲

◎ピアノのための変奏曲 作品27

～マジシャンとピアニストによる「12音の首飾り」

ヘルムート・ラッヘンマン作曲

◎ギロ

アレクサンドル・ローゼンブラット作曲

◎ショパンの主題による変奏曲

◎2つのロシアの主題によるコンチェルティーノ(musicaliceland 編)

◎タンゴ

◎ワルツ・エレジー

◎組曲「不思議の国のアリスの冒険」より 2つの断片(加藤麗子 編)

◎組曲「白鳥の湖」

～チャイコフスキーの主題によるファンタジー(musicaliceland 編)

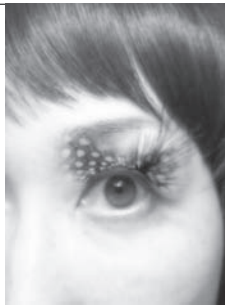
※演奏順は当日発表します。なお、演奏者の都合により曲目が変更される場合があります。

反省しない雑草集団、その畑違いの4人とは…



小野智彦／マジシャン弁護士

うなぎパイで有名な静岡県浜松市で生まれ育つ。幼少からブラスバンドでトロンボーンに親しみ、将来の夢は藝大に進みオーケストラで音を出すことだったが、何故か今はマジシャンとなり口からトランプを出している。中央大学で法律学を修め、弁護士としても活躍。「金色のカッシュユ!!」のカラー原稿を小学館が紛失した事件では、作者雷句誠の代理人を務め勝訴的和解を得る他、数々の業績を上げ、二足の草鞋を完全に履きこなす。またオカリナ、フルート、尺八、手相鑑定、落語、ギター、カメラなど、多趣味極まる。



加藤麗子／ピアニスト

東京藝術大学卒業。コンサート企画プロデューサーとして活躍し、ローゼンブラット音楽の第一人者を自負している。また指導者賞を受賞するなど後進のピアノ指導にも力を入れている。生粋のアウトドア派で、家を出たら帰って来ない。趣味は山登り、ランニング、筋トレ、というのは表向きで昨年のコンサート前には深刻なほど太った。特技は人々を喜ばすことだが、それは喜びまで許さないことを意味している。生き方そのものがコメディータンとよく言われる。好きな言葉は、「人生に無駄なし」「継続は力なり」。



高橋健一郎／ロシア語教授ピアニスト

高校まで藝大を目指すのが、東京大学理科学部に入学。大学3年で文転。東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士課程を修了し、現在は札幌大学地域共創学群ロシア語専攻教授に就任。ロシア音楽を中心に演奏活動をしながら、日本アレンスキー協会副会長も務める。第30回ピティナ・ピアノコンペティションで全国大会第2位、併せてロイズ賞受賞。第7回ルーマニア国際音楽コンクール奨励賞受賞。楽譜の出版にも携わる。インドア派につき、アウトドアには決して誘ってはいけない。



松本和貴／総監督

musicaliceland代表。生物学の道へ進むはずが、いつのまにか法律家を目指し、間違えて芸術と関わり、どういつ訳か総監督に就任。人生色々、音楽も色々でございます。法律、美術、古楽、現代音楽、芸能、服飾、文学など、ロマン派以外の幅広いムダ知識をひけらかし、凝り固まる現代音楽に風穴を開ける所存。最近、世間体で車の免許を取ったばかりだが、早くも生涯ペーパードライバーを宣言している。ドア・トゥ・ドアがモトローのインドア派。